

ネットワークボード

重い障がいがあっても、地域でひとり暮らしをしていく...これは、まだまだ実例は少ないけれども、とても大切な選択肢です。今回ご紹介するドキュメンタリー映画「江里はみんなと生きていく」は、千葉県浦安市を舞台に、西田江里さんと家族、そしてケアにあたるスタッフに12年間にわたり密着した記録です。10月の一般公開に向けて、先日試写会にお招き頂いて観てきました。淡々と綴られる日常の中に地域生活に関わる重要な選択とその葛藤もあり、それ以上に江里さんに関わるスタッフの成長が本当にリアルに記録されていて、色々なものを掻き立てられる、そんな作品でした。（編集部）



10月下旬

ロードショー!

ポレポレ東中野

ほか

監督：寺田靖範

(91分)

江里はみんなと生きていく 検索

【作品詳細&上映情報】

<https://eri-movie.com/>



編集後記



福祉業界の深刻な人手不足が叫ばれ始めて20年以上が経過するでしょうか。特にここ数年は高齢化社会の急速な進行もあって、さらに深刻化しています。中でもグループホームや入所施設、住宅のヘルパーなど、夜間支援を含めてどうしても支援の時間が長く、多様化しやすい業種を敬遠する傾向が顕著です。ある統計では、「きつい仕事ベスト5」で、保育士や教師を抑えて、「介護職」が1位になるという実に嘆かわしい事態になっています。

国もこうした事態を黙って放置しているわけではなく、毎年福祉職員の処遇改善を図ってはいますが、一般企業の賃金がそれを上回る勢いで上がっていて、その格差は開く一方のように感じています。また、ハローワークに求人を出すと、「当社のサイトに無料で広告を出しませんか？」という営業の電話が多くかかってきます。資料を見ると「2週間で自動的に有料広告（高額）に切り替わります」というものがほとんど。法律違反ではないものの、現在様々な業界でこういった人材募集の営業がトラブルを引き起こしており、問題となっています。もちろん利用する側も「見る目」は養わなければなりません、なんともやりにくい世の中になったなど、つい嘆いてしまったりします。

とは言え、多様な福祉サービスへのニーズは今後ますます高まることが明らかで、現状を嘆いてばかりはいられません。今までもそうしてきたように、職員を始め、関係者で力を合わせて豊かな社会を創るべく、明るく、そして楽しく、前向きに取り組んでいきたいと思う今日この頃です。（みなみやま）